

令和7年度（令和6年度実施）  
高知県公立学校教員採用候補者選考審査  
筆記審査（専門教養）  
中学校 高等学校 特別支援学校 中学部 高等部  
保健体育

|      |  |     |  |
|------|--|-----|--|
| 受審番号 |  | 氏 名 |  |
|------|--|-----|--|

【注意事項】

- 1 審査開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見ないでください。
- 2 解答用紙（マークシート）は2枚あります。切り離さないでください。
- 3 解答用紙（マークシート）は、2枚それぞれに下記に従って記入してください。
  - 記入は、HBの鉛筆を使用し、該当する○の枠からはみ出さないよう丁寧にマークしてください。



- 訂正する場合は、消しゴムで完全に消してください。
- 氏名、受審する教科・科目、受審種別、受審番号を、該当する欄に記入してください。

また、併せて、右の例に従って、受審番号をマークしてください。

| 受 審 番 号 |    |    |    |    |
|---------|----|----|----|----|
| 万       | 千  | 百  | 十  | 一  |
| 1       | 2  | 3  | 4  | 5  |
| ○0      | ○0 | ○0 | ○0 | ○0 |
| ●       | ○1 | ○1 | ○1 | ○1 |
| ○2      | ●  | ○2 | ○2 | ○2 |
| ○3      | ○3 | ●  | ○3 | ○3 |
| ○4      | ○4 | ○4 | ●  | ○4 |
| ○5      | ○5 | ○5 | ○5 | ●  |

記入例

(受審番号12345の場合)

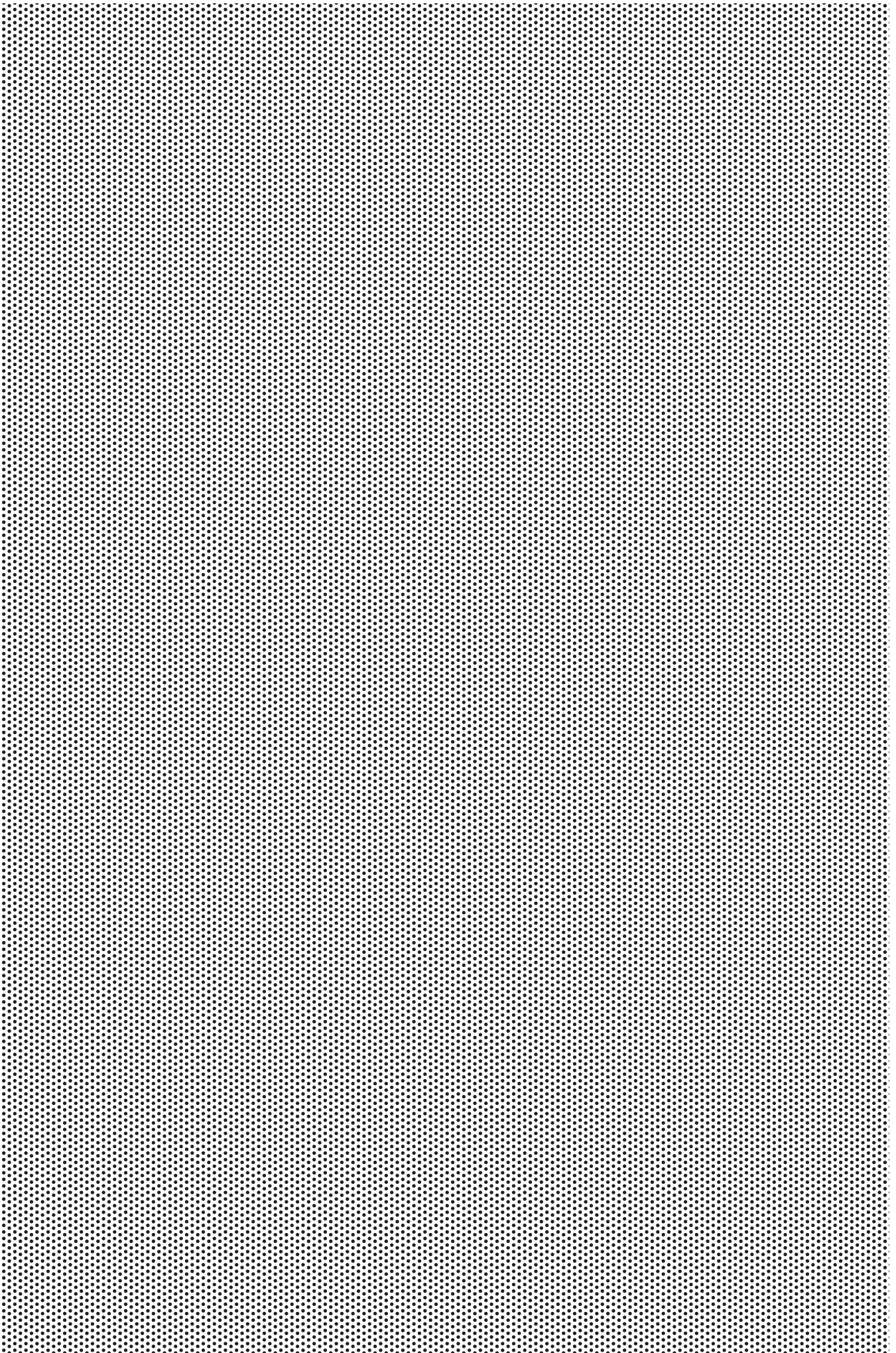
- 4 この問題は、【共通問題】、及び【選択問題 中学校】、【選択問題 高等学校】、【選択問題 特別支援学校】の各問題から構成されています。選択問題で受審種別以外の問題を選択して解答した場合、解答は全て無効となります。
- 5 解答は、解答用紙（マークシート）の解答欄をマークしてください。例えば、解答記号 ア と表示のある問いに対してbと解答する場合は、下の（例）のように**アの解答欄の○b**をマークしてください。

（例）

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ア | a | ● | c | d | e | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | . | - | ± |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

なお、一つの解答欄に対して、二つ以上マークしないでください。

- 6 筆記審査（専門教養）が終了した後、解答用紙（マークシート）のみ回収します。監督者から指示があれば、この問題冊子を、各自、持ち帰ってください。



## 【共通問題】

第1問 運動領域及び競技の用語に関して，次の1～6の問いに答えなさい。

1 次の①と②は，外国のフォークダンスの曲名とその隊形の組み合わせを示したものである。正しくない組み合わせを，次のa～eから一つ選びなさい。 ア

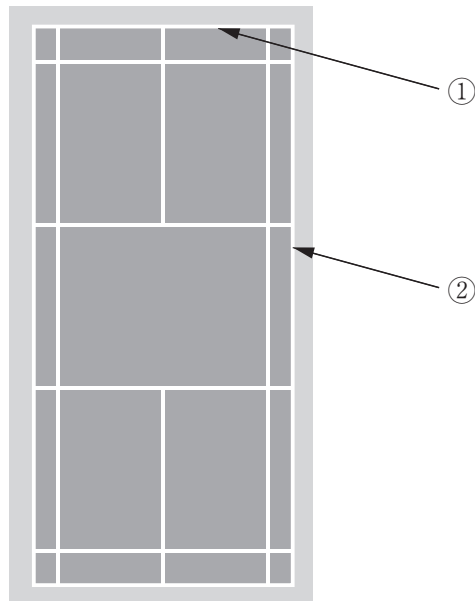
- |   |              |                   |
|---|--------------|-------------------|
| a | ① オクラホマ・ミクサー | ② ダブルサークル（二重円）    |
| b | ① ミザルー       | ② オープンサークル        |
| c | ① マイム・マイム    | ② シングルサークル（一重円）   |
| d | ① ハーモニカ      | ② ダブルサークル（二重円）    |
| e | ① バージニア・リール  | ② ロングウェーズフォーメーション |

2 相撲における中学生以下の禁じ技について，正しくないものを，次のa～eから一つ選びなさい。 イ

- a かんぬき
- b いなし
- c 河津掛け
- d さば折り
- e 反り技

- 3 次の図は、バドミントンのコートを示したものである。図中の①・②に該当する名称の正しい組み合わせを、下の a～e から一つ選びなさい。

ウ



- a ① ロングサービスライン(ダブルス)      ② サイドライン(ダブルス)  
 b ① ロングサービスライン(シングルス)      ② サイドライン(ダブルス)  
 c ① ロングサービスライン(ダブルス)      ② ショートサービスライン  
 d ① ロングサービスライン(シングルス)      ② サイドライン(シングルス)  
 e ① ロングサービスライン(シングルス)      ② ショートサービスライン
- 4 次の文は、卓球のラケットの握り方、ラバーの種類及び特徴について述べたものである。正しくないものを、次の a～e から一つ選びなさい。

エ

- a 裏ソフトラバーは、ボールに回転をかけやすい。  
 b ペンホルダーグリップは、鉛筆やペンを持つように握る。  
 c ツブラバーは、回転のかかったボールに対応しにくい。  
 d シェークハンドグリップは、人と握手するように握る。  
 e 表ソフトラバーは、スピードボールが打ちやすい。

- 5 ソフトテニスのサービスにおいて、レットとなる場合について述べたものを、次の a～e から一つ選びなさい。 オ

- a 足がセンターマークの延長線を超えて打ったとき。
- b トスしたボールを打ちそこなったとき。
- c ラケットにボールが2度以上触れたとき。
- d サービスで2個のボールを同時にトスしたとき。
- e サービスしたボールが、ネットに触れたのち、正しいサービスコート内に入ったとき。

- 6 ソフトボールにおける次の図の投球モーションを何というか。下の a～e から一つ選びなさい。なお、左から右の順に一連の動きを行うものとする。 カ



- a エイトフィギュア
- b ウインドミル
- c スリングショット
- d サイドスロー
- e スタンダード

第2問 競技に関するルール及び新体力テストの行い方について、次の1～7の問いに答えなさい。(各競技種目の競技規則・ルールは令和6年1月31日現在のものとする。)

1 次の文は、陸上競技のルールについて述べたものである。正しくないものを、次のa～eから一つ選びなさい。

- a 100m競技において、レース最中10秒間の追い風の平均秒速が2mを越えると記録は公認されない。
- b リレー競技において、テークオーバーゾーンは30mである。
- c 短距離種目において、レーン区間のラインの幅は5cmである。
- d 短距離種目において、レーンの幅は、1.25mまたは1.30mである。
- e リレー競技において、次走者はテークオーバーゾーンの中でスタートを切り、かつバトンの受け渡しを完了しなければならない。

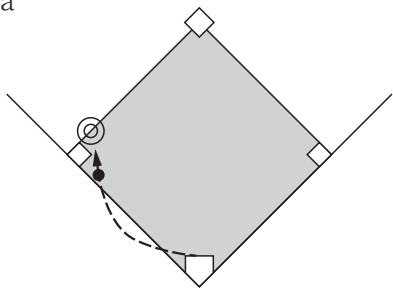
2 競泳競技の「メドレーリレー」の泳法順序として正しいものを、次のa～eから一つ選びなさい。

- a 背泳ぎ → バタフライ → 平泳ぎ → 自由形
- b バタフライ → 背泳ぎ → 平泳ぎ → 自由形
- c 背泳ぎ → 平泳ぎ → バタフライ → 自由形
- d 平泳ぎ → 背泳ぎ → バタフライ → 自由形
- e バタフライ → 平泳ぎ → 背泳ぎ → 自由形

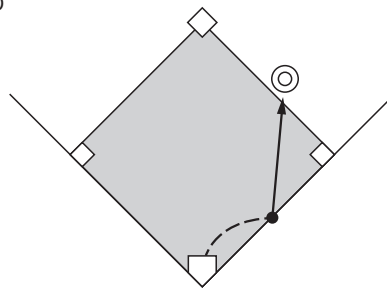
3 ソフトボールにおいて、ファウルボールとなるものを、次の図の a～e から一つ選びなさい。

ウ

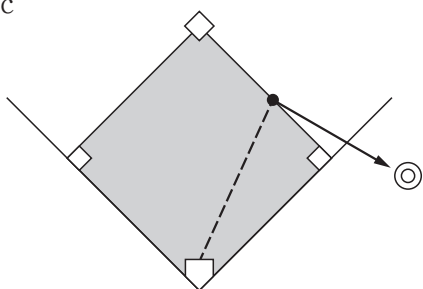
a



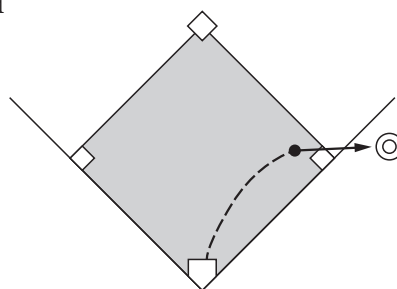
b



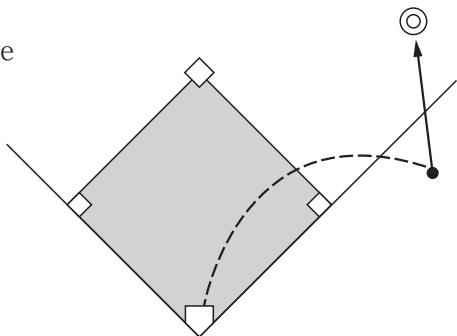
c



d



e



—— ゴロ    --- フライ  
● 打球が地面に触れた点  
◎ 打球が止まった点

4 次の文は、バレーボールのルールについて述べたものである。正しくないものを、次のa～eから一つ選びなさい。 エ

- a どちらかのチームが2点以上の差をつけて25点先取すると、そのセットに勝つ。
- b 相手側コートに打ち返すために、同一チーム内で最大限3回ボールに触れることができる。ブロックに触れたときは、ブロック以外に最大限2回プレーできる。
- c 5セットマッチで行われる試合でセットカウントが2対2のタイとなった場合、最終（第5）セットは、一方が8点先取したときにコートを交代する。
- d ボールをプレー中のプレーヤーが、アンテナを含むネットに触れると「タッチネット」の反則となる。
- e サービスヒットの瞬間、両チームは（サーバーを除き）それぞれのコート内でローテーション順に位置していなければならない。

5 次の文は、ハンドボールのルールについて述べたものである。正しくないものを、次のa～eから一つ選びなさい。 オ

- a ゲーム中、レフリーが必要に応じて「タイムアウト」をとるが、そのときゲームウォッチは止められ、レフリーの再開の吹笛で再び始動させる。
- b スローオフは、攻撃側の1人がボールを持ち、片足をセンターラインの上において行う。
- c ボールが防御側のコートプレーヤーに触れてアウターゴールラインを越えて出た場合、ボールが出た側のサイドラインとアウターゴールラインの交点を踏んでスローインし、再開する。
- d 同時に競技場に出ることができるのは、ゴールキーパー1名とコートプレーヤー7名の計8名である。
- e ゲーム中のプレーヤーの交代は、自チームの交代ラインからいつでも、何回でも交代できる。

6 次の文は、剣道の試合の開始と終了について述べたものである。正しくないものを、次のa～eから一つ選びなさい。なお、a～eの順に試合を行うものとする。 カ

- a 竹刀を下げて（<sup>さげとう</sup>提刀）相手と合わせて礼をする。
- b 竹刀を腰につけて（帯刀）3歩進み、竹刀を抜き合わせつつ<sup>そんきょ</sup>蹲踞する。
- c 主審の「はじめ」の宣告で立ち上がって試合を開始する。
- d 試合時間が終了し、主審が「止め」の宣告をしたときは、試合者は開始線に戻る。
- e 立ったまま竹刀を抜き合わせて構えた後、竹刀をおさめて腰につけて（帯刀）待ち、主審の「勝負あり」、「引き分け」の宣告で試合は終了する。



7 次の文は、新体力テストについて述べたものである。正しくないものを、次の a～e から一つ選びなさい。 

|   |
|---|
| キ |
|---|

- a 「上体起こし」では、両肘と両大腿部がつくまで上体を起こす（両腕は身体に固定）。
- b 「反復横跳び」では、外側のラインを踏まなかったり越えなかった場合、中央ラインをまたがなかった場合は点数としない。
- c 「立ち幅跳び」の記録はcm単位とし、cm未満は切り捨てる。
- d 「20mシャトルラン」で、次の電子音が鳴るまでに20m先の線上に達し向きを変えていなければならない。電子音が鳴ったらスタートし、さらに次の電子音が鳴るまでに元の線に戻って向きを変えていなければならない。音源（テスト用CDまたはテープ等）に、ついていけず走るのをやめたとき、または、2回続けてどちらかの足で線に触れることができなくなったときに、テストを終了する。
- e 「ハンドボール投げ」では、2回実施して、その平均値を記録とする。

第3問 次の1・2の問いに答えなさい。

- 1 運動の技能のポイントについて、次の(1)～(4)の問いに答えなさい。なお、(2)～(4)の問いについてはa～eの順に一連の動きを行うものとする。

- (1) 次の文は、サッカーにおける「浮いているボールの処理（トラップング）」の技能ポイントについて述べたものである。正しくないものを、次のa～eから一つ選びなさい。

- a インサイドで行う場合、ボールの落ち際をよく見て、やや膝をかぶせるようにする。
- b ももで行う場合、ボールが当たる瞬間、タイミングよくももを引いて勢いを吸収する。
- c アウトサイドで行う場合、足首を寝かせて準備し、ボールを進める方向へ足を押し出す。
- d 胸で行う場合、ボールが当たる瞬間、胸に力を入れてはじく。
- e ソール（足のうら）で行う場合、ボールがはねる瞬間を押さえる。

- (2) 次の文は、マット運動における「ロンダート」の技能ポイントについて述べたものである。正しくないものを、次のa～eから一つ選びなさい。

- a ホップしてから側方倒立回転に入る。
- b 踏み切りからスムーズに支持腕に体重を乗せる。
- c 空中ですばやく足を揃え、1／2ひねりを加える。
- d 足を下に下ろしながら、手で突き放す。
- e 上体を起こしながら着地する。

- (3) 次の文は、陸上競技における「背面跳び」（左足踏み切り）の技能ポイントについて述べたものである。正しくないものを、次のa～eから一つ選びなさい。

- a 踏み切る前まで前傾してスピードを上げておく。
- b 踏み切りでは、体を内側にたおして重心を下げる。
- c 接地では、かかとから素早く踏み込む。
- d 膝、腕、肩をタイミングよく引き上げる。
- e 体を後ろにたおしてバーを越す。

- (4) 次の文は、バスケットボールにおける「アンダーハンドのレイアップシュート」(左足踏み切り)の技能ポイントについて述べたものである。正しくないものを、次のa～eから一つ選びなさい。 エ

- a ボールをキャッチし、目をゴールに向ける。
- b 1歩目は小さく(右足)、2歩目は大きく(左足)ステップしてジャンプする。
- c ジャンプの際、右膝を高く引き上げる。
- d 指を大きく広げてボールを真下から支えて安定させる。
- e ボールをそっと置くようにシュートする。

2 体育理論について、次の(1)～(3)の問いに答えなさい。

- (1) 次の文は、スポーツ障害について述べたものである。①～④に該当する語句の正しい組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。 オ

運動やスポーツ、あるいはトレーニングのやりすぎ(=( ① ))によって、( ② )や( ③ )などの障害を引き起こすことがある。また、場合によっては心理的に( ④ )の状態になることがある。

- a ① オーバートレーニング      ② 疲労骨折      ③ 貧血  
④ ロコモティブシンドローム
- b ① オーバーロード      ② 捻挫      ③ 貧血  
④ バーンアウト
- c ① オーバートレーニング      ② 捻挫      ③ 肉離れ  
④ ロコモティブシンドローム
- d ① オーバーロード      ② 疲労骨折      ③ 肉離れ  
④ バーンアウト
- e ① オーバートレーニング      ② 疲労骨折      ③ 貧血  
④ バーンアウト

- (2) 次の文は、オリンピック・パラリンピックの意義について述べたものである。①～③に該当する語句の正しい組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。 カ

1896年に近代オリンピックを再興したクーベルタンは、オリンピックのあるべき姿としてスポーツによる青少年の健全育成と世界平和の実現を掲げた。この理念を（ ① ）という。

（ ① ）を世界中の人々によく知ってもらうため、IOCが中心となって、4年に1度のオリンピック競技大会の開催、様々なスポーツの普及活動、国際連合と各種機関と協力しながら世界に向けた（ ② ）の呼びかけ、自然環境にやさしい大会の運営、ドーピングに厳格な姿勢で立ち向かうアンチ・ドーピング運動などについて活動している。

パラリンピックムーブメントとは、パラリンピックスポーツを通して発信される価値やその意義を通して世の中の人に気づきを与え、よりよい社会をつくるための社会変革を起こそうとする活動のことである。パラリンピックには「人々が平等に活躍できる社会をどうつくるか」という（ ③ ）を実現するための重要なヒントが詰まっている。

- |   |          |       |           |
|---|----------|-------|-----------|
| a | ① オリンピアド | ② 多様性 | ③ グローバル社会 |
| b | ① オリンピズム | ② 休戦  | ③ 共生社会    |
| c | ① オリンピアド | ② 多様性 | ③ 共生社会    |
| d | ① オリンピズム | ② 多様性 | ③ グローバル社会 |
| e | ① オリンピアド | ② 休戦  | ③ 共生社会    |

- (3) 次の文は、スポーツと経済について述べたものである。①～③に該当する語句の正しい組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。 キ

1970年代以降、スポーツの世界にはテレビなどのメディアが進出し、ビジネス化が進んできた。（ ① ）や広告権の売買、チケットの購入、スタジアムまでの交通費や観戦にともなう飲食費の支出、スタジアムの建設、観戦のための電化製品の購入など、投資や消費が経済に及ぼす影響を（ ② ）効果という。

オリンピックやサッカーのワールドカップといったスポーツイベントがビジネスの対象となり、世界的な企業が（ ③ ）となって、巨額の（ ① ）料が支払われている。

- |   |       |        |         |
|---|-------|--------|---------|
| a | ① 放送権 | ② 経済波及 | ③ スポンサー |
| b | ① 放送権 | ② 社会的  | ③ トレーナー |
| c | ① 著作権 | ② 経済波及 | ③ スポンサー |
| d | ① 著作権 | ② 経済波及 | ③ トレーナー |
| e | ① 放送権 | ② 社会的  | ③ スポンサー |

第4問 保健について、次の1～4の問いに答えなさい。

1 次の文は、食品と健康について述べたものである。正しい組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。 ア

- ① 食中毒の原因別発生状況では、自然毒による食中毒がもっとも多く、発生件数の約50%を占めている。
- ② 食物アレルギーで、全身の複数の臓器に激しい症状が現れることをアナフィラキシーと呼び、血圧低下や呼吸困難などにより、命に関わることがある。
- ③ 免疫抗体であるIgE抗体をつくりやすい人はアレルギーになりにくいといわれている。
- ④ エピペン<sup>®</sup>は、アナフィラキシーがあらわれたときに使用し医師の治療を受けるまでの間、症状の進行を緩和するアドレナリンの自己注射器である。
- ⑤ 食品の製造・加工段階では、原材料の受け入れから製品の出荷までの各工程であらかじめ危害を予測し、危害防止につながる重要な工程を継続的に監視・記録するUNICEFという衛生管理方法が導入されている。

a ①・②      b ①・③      c ②・③      d ②・④      e ④・⑤

2 次の文は、がんの治療と回復について述べたものである。正しい組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。 イ

- ① 緩和ケアは、心と体の痛みを和らげる治療であり、がんの進行が進み、末期になってから提供される治療である。
- ② アピアランスケアとは、医学的・整容的・心理社会的支援を用いて、外見の変化を補完し、外見の変化に起因するがん患者の苦痛を軽減するケアをいう。
- ③ がん対策基本法には、がん患者の雇用の継続等に配慮するよう努めるという事業主の責務が示されていない。
- ④ がんゲノム医療は、体の免疫を強めたり、免疫機能へのブレーキを解除したりすることで、がん細胞を排除する医療である。
- ⑤ 国立がん研究センターがん情報サービスサポートセンターは、全国のがん相談支援センターを案内する電話窓口である。

a ①・②      b ②・③      c ②・⑤      d ③・④      e ④・⑤

3 次の文は、結婚生活と健康について述べたものである。正しい組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。 ウ

- ① 親になるという精神的な重圧やホルモンのバランスが崩れることなどにより、女性が出産後に精神的健康を害することがある。これをマリッジブルーや産後うつなどという。
- ② 夫婦関係が悪化した場合、精神的健康に悪影響を与える。とりわけ家庭内暴力（ドメスティック・バイオレンス，DV）の被害者は、けがやうつ病など心身ともに不健康リスクが高い。
- ③ 児童虐待防止法により、児童虐待は身体的虐待，心理的虐待，性的虐待の3種類で定義されている。
- ④ 子どもが親のことを「自分を守ってくれる安全基地だ」と捉える気持ち（アタッチメント）を育むことは、将来、子どもが人間関係を築く上で非常に重要である。
- ⑤ 結婚生活をしている場合、1人暮らしを続けている場合よりも死亡リスクが高くなる。

a ①・④      b ②・④      c ②・③      d ③・④      e ③・⑤

4 次の文は、身のまわりの放射線被曝と健康影響について述べたものである。正しい組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。 エ

- ① 胸のX線検査／1回と、CT検査／1回の放射線量は同じである。
- ② 放射線を取り扱う作業員の放射線量限度は、500mSv／年である。
- ③ 宇宙や大地，食物などから受ける，1人当たりの自然放射線は，日本平均が約2.1mSv／年である。
- ④ 放射性物質を含む大気を吸ったり飲食物を摂取したりすることを外部被曝という。
- ⑤ 被曝すると，DNAが損傷したり，白血病や甲状腺などのがんが多発したりするが，放射線量が少ない場合は健康に影響はないと考えられている。

a ①・②      b ①・③      c ②・④      d ③・⑤      e ④・⑤

【選択問題 中学校】

第5問 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編について、次の1～6の問いに答えなさい。

1 次の文は、「第2章 保健体育科の目標及び内容 第1節 教科の目標及び内容 1 教科の目標」の一部である。文中の ア・イ に該当する語句を、それぞれ下の a～e から一つずつ選びなさい。

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、**ア**を実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、イを身に付けるようにする。
- (2) (略)
- (3) (略)

ア

- a 人間関係                      b 明るく豊かな生活                      c 健康・安全な生活  
d 豊かなスポーツライフ                      e 体力の向上

イ

- a 基本的な技能      b 問題解決能力      c 思考力・判断力・表現力等  
d 合理的な技術      e 学びに向かう力

2 次の文は、「第2章 保健体育科の目標及び内容 第2節 各分野の目標及び内容〔体育分野〕 2 内容 E 球技 第3学年 (1) 知識及び技能」の一部である。文中の  ・  に該当する語句を、それぞれ下の a～e から一つずつ選びなさい。

(1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、  の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開すること。

ア (略)

イ ネット型では、役割に応じたボール操作や  用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすること。

ウ (略)

- a 技術トレーニング    b 戦術学習    c 体力トレーニング    d ゲーム  
e 運動観察

- a 習熟した    b 巧みな    c 様々な    d 的確な    e 安定した

3 次の文は、「第2章 保健体育科の目標及び内容 第2節 各分野の目標及び内容〔体育分野〕 2 内容 H 体育理論 第1学年及び第2学年 ○運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方 ア 知識」の一部である。文中の  ・  に該当する語句を、それぞれ下の a～e から一つずつ選びなさい。

ア 運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方について理解すること。

(7) 運動やスポーツは、身体の発達やその機能の維持、体力の向上などの効果や自信の獲得、  などの心理的効果及びルールやマナーについて合意したり、  を築いたりするなどの社会性を高める効果が期待できること。

- a 自己肯定感が高まる    b 承認欲求の充足    c メンタルトレーニング  
d ストレスの解消    e 帰属、意識の向上

- a 健康な生活    b 適切な人間関係    c 合意形成    d 信頼関係  
e 安全な生活



- 4 次の文は、「第2章 保健体育科の目標及び内容 第2節 各分野の目標及び内容〔保健分野〕 2 内容 (1) 健康な生活と疾病の予防」の一部である。文中の  ・  に該当する語句を、それぞれ下の a～e から一つずつ選びなさい。

(1) 健康な生活と疾病の予防について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 健康な生活と疾病の予防について理解を深めること。

(ア) (略)

(イ) (略)

(ウ) 生活習慣病などは、運動不足、食事の量や質の偏り、休養や睡眠の不足などの生活習慣の乱れが主な要因となって起こること。また、生活習慣病などの多くは、適切な運動、食事、休養及び睡眠の  生活を実践することによって予防できること。

(エ) (略)

(オ) 感染症は、病原体が主な要因となって発生すること。また、感染症の多くは、発生源をなくすこと、感染経路を  すること、主体の抵抗力を高めることによって予防できること。

- a 安定した    b 乱れのない    c 充実した    d 十分な  
e 調和のとれた

- a 遮断    b 限定    c 予測    d 特定    e 分析

- 5 次の文は、「第3章 指導計画の作成と内容の取扱い 1 指導計画の作成」の一部である。文中の  に該当する語句を、下の a～e から一つ選びなさい。

2 第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。

(1) 体力や技能の程度、性別や障害の有無等にかかわらず、運動の  を共有することができるよう留意すること。

- a 特性    b 多様な楽しみ方    c 社会的意義    d ルール    e 役割

- 6 次の表は、「巻末参考資料」に示された「ゲーム，ボール運動，球技にみる『型』の特性と例」である。表中の①～③に該当する語句の正しい組み合わせを，下の a～e から一つ選びなさい。

コ

|    | ゴール型                                                                                                                       | ネット型                                                                                        | ベースボール型                                                                    |
|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|
| 特性 | ドリブルやパスなどのボール操作で相手コートに侵入し，シュートを放ち，一定時間内に相手チームより多くの得点を競い合うゲーム                                                               | コート上でネットを挟んで相対し，身体や用具を操作してボールを空いている場所に返球し，一定の得点に早く到達することを競い合うゲーム                            | 身体やバットの操作と走塁での攻撃，ボール操作と定位置での守備などによって攻守を規則的に交代し，一定の回数内で相手チームより多くの得点を競い合うゲーム |
| 例  | バスケットボール<br>ハンドボール<br>サッカー<br>ラグビー<br>アメリカンフットボール<br>フィールドホッケー<br>アイスホッケー<br>ラクロス<br>タグラグビー<br>フラグフットボール<br>( ① )<br>フットサル | バレーボール<br>卓球<br>テニス<br>バドミントン<br>パドルテニス<br>ラケットボール<br>スカッシュ<br>( ② )<br>ソフトバレーボール<br>ブレルボール | ソフトボール<br>野球<br>ティーボール<br>( ③ )<br>キックベースボール                               |

- |   |           |           |           |
|---|-----------|-----------|-----------|
| a | ① クリケット   | ② インディアカ  | ③ アルティメット |
| b | ① アルティメット | ② インディアカ  | ③ クリケット   |
| c | ① クリケット   | ② アルティメット | ③ インディアカ  |
| d | ① アルティメット | ② クリケット   | ③ インディアカ  |
| e | ① インディアカ  | ② アルティメット | ③ クリケット   |

## 【選択問題 高等学校】

第5問 高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編 体育編について、次の1～5の問いに答えなさい。

- 1 次の文は、「第2章 保健体育科の目標及び内容 第1節 教科の目標及び内容 1 教科の目標」の一部である。文中の  ・  に該当する語句を、それぞれ下のa～eから一つずつ選びなさい。

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し  を継続するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) (略)  
 (2) (略)  
 (3) 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と  を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

- a 体力の向上                      b 人間関係                      c 豊かなスポーツライフ  
 d 健康・安全な生活              e 明るく豊かな生活

- a フェアプレー              b 技能の向上              c 体力の向上              d 多様性  
 e 公正や協力

2 次の文は、「第2章 保健体育科の目標及び内容 第2節 各科目の目標及び内容  
「体育」 3 内容 E 球技 [入学年次] (1) 知識及び技能」の一部である。文中の  
・に該当する語句を、それぞれ下のa～eから一つずつ選  
びなさい。

(1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体  
力の高め方、の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と  
連携しゲームを展開すること。

ア (略)

イ ネット型では、役割に応じたボール操作や用具の操作と連携した動き  
によって空いた場所をめぐる攻防をすること。

ウ (略)

- a 練習      b 運動観察      c 技術トレーニング      d 体力トレーニング  
e 戦術学習

- a 安定した      b 的確な      c 巧みな      d 様々な      e 習熟した

3 次の文は、「第2章 保健体育科の目標及び内容 第2節 各科目の目標及び内容 「体育」 3 内容 H 体育理論 3 豊かなスポーツライフの設計の仕方 ア 知識」の一部である。文中の  ・  に該当する語句を、それぞれ下の a～e から一つずつ選びなさい。

(3) 豊かなスポーツライフの設計の仕方について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 豊かなスポーツライフの設計の仕方について理解すること。

(ア) (略)

(イ) (略)

(ウ) (略)

(エ) 人生に潤いをもたらす貴重な  として、スポーツを未来に継承するためには、スポーツの  を踏まえて適切な「する、みる、支える、知る」などの関わりが求められること。

- a 経済的資源    b 財産    c 健康資源    d レガシー（遺産）  
e 文化的資源

- a 価値や意義    b 多様性    c 可能性と問題点    d 影響力  
e 効用と弊害

- 4 次の表は、「第2章 保健体育科の目標及び内容 第2節 各科目の目標及び内容 「体育」 4 内容の取扱い」の一部である。表中の  ・  に該当する数を、それぞれ下の a ～ e から一つずつ選びなさい。

「体育」の領域及び内容の取扱い

| 領域及び<br>領域の内容                                                                        | 内容の取扱い |        |         |                                                                     |
|--------------------------------------------------------------------------------------|--------|--------|---------|---------------------------------------------------------------------|
|                                                                                      | 入学年次   | その次の年次 | それ以降の年次 | 各領域の取扱い                                                             |
| A 体づくり運動<br>ア 体ほぐしの運動<br>イ 実生活に生かす運動の計画                                              | 必修     | 必修     | 必修      | ア, イ 必修（各年次<br><div>キ</div> 単位時間程度）                                 |
| B 器械運動                                                                               | (略)    | (略)    | (略)     | (略)                                                                 |
| C 陸上競技                                                                               |        |        |         | (略)                                                                 |
| D 水泳                                                                                 |        |        |         | (略)                                                                 |
| E 球技                                                                                 | (略)    |        |         |                                                                     |
| F 武道                                                                                 | (略)    |        |         |                                                                     |
| G ダンス                                                                                | (略)    |        |         | (略)                                                                 |
| H 体育理論<br>(1) スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展<br>(2) 運動やスポーツの効果的な学習の仕方<br>(3) 豊かなスポーツライフの設計の仕方 | 必修     | 必修     | 必修      | (1) は入学年次, (2) はその次の年次, (3) はそれ以降の年次で必修（各年次<br><div>ク</div> 単位時間以上） |

- a 6～8
- b 6～9
- c 7～10
- d 7～12
- e 8～14

- a 3
- b 4
- c 5
- d 6
- e 9

- 5 次の文は、「第2章 保健体育科の目標及び内容 第2節 各科目の目標及び内容 「保健」 3 内容 (1) 現代社会と健康」の一部である。文中の  ・  に該当する語句を、それぞれ下の a～e から一つずつ選べ。

- (1) 現代社会と健康について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 現代社会と健康について理解を深めること。

(ア) 健康の考え方

国民の健康課題や健康の考え方は、国民の健康水準の向上や疾病構造の変化に伴って変わってきていること。また、健康は、様々な要因の影響を受けながら、主体と環境の相互作用の下に成り立っていること。

健康の保持増進には、 の考え方を踏まえた個人の適切な意思決定や行動選択及び環境づくりに関わること。

(イ) (略)

(ウ) 生活習慣病などの予防と回復

健康の保持増進と生活習慣病などの予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の  生活の実践や疾病の早期発見、及び社会的な対策が必要であること。

(エ) (略)

(オ) 精神疾患の予防と回復

精神疾患の予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の  生活を実践するとともに、心身の不調に気付くことが重要であること。また、疾病の早期発見及び社会的な対策が必要であること。

- a SDGs    b セルフマネジメント    c 医食同源    d ヘルスプロモーション  
e セルフチェック

- a 調和のとれた    b 十分な    c 適切な    d 乱れのない  
e 充実した

## 【選択問題 特別支援学校】

第5問 次の1～5の問いに答えなさい。

- 1 次の文は、令和4年12月に文部科学省より示された「生徒指導提要」の一部である。

発達障害を含む障害者への差別の解消に関して、平成28年4月に「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（いわゆる「障害者差別解消法」）が施行されました。この法律では、障害を理由とする「」の禁止と障害者への「合理的配慮の提供」が求められています。とは障害者の権利利益を侵害することです。合理的配慮の提供とは、から社会的障壁の除去を必要としている旨の意思の表明があった場合は、その実施に伴う負担が過重でないときは、障害者の権利利益を侵害することとならないよう、社会的障壁の除去の実施について必要かつ合理的な配慮に努めなければならないということです。

- (1) 空欄アに入る語句を、次のa～dの中から一つ選びなさい。

- a 不当な差別的な取扱い      b 活動の制限  
c 各種機会の提供の拒否      d 選挙活動の制限

- (2) 空欄イに入る語句を、次のa～dの中から一つ選びなさい。

- a 学級担任                      b 障害者  
c 医師                          d 関係者



2 次の文は、令和3年9月に文部科学省から通知された「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律の施行について（通知）」にある「留意事項」の一部である。

文中の  ～  に当てはまる語句を下の1～9の中から一つずつ選びなさい。

(1) 定義（第2条関係）

- ① 「医療的ケア」の定義は、人工呼吸器による呼吸管理、喀痰吸引その他の  であり、幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校（以下「学校」という。）において、  の指示の下、医療的ケア看護職員や喀痰吸引等（社会福祉士及び介護福祉士法（昭和62年法律第30号）第2条第2項に規定する喀痰吸引等をいう。以下同じ。）を行うことができる介護福祉士、認定特定行為業務従事者（社会福祉士及び介護福祉士法附則第3条第1項に規定する認定特定行為業務従事者をいう。以下同じ。）が従前から行っている医療的ケアの範囲を変更するものではないこと。（第2条第1項関係）
- ② 「医療的ケア児」の定義は、日常生活及び社会生活を営むために  に医療的ケアを受けることが不可欠である児童であり、18歳未満の者に加え、18歳以上の者であって、高等学校、中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の高等部に在籍する者も含まれること（以下「児童生徒等」という。）。（同条第2項関係）

- |       |        |       |        |        |
|-------|--------|-------|--------|--------|
| 1 学校長 | 2 医療行為 | 3 定期的 | 4 医師   | 5 健康管理 |
| 6 恒常的 | 7 養護教諭 | 8 緊急的 | 9 看護行為 |        |

- 3 次の文は、「特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）（平成30年3月）」の一部である。

児童生徒一人一人の学習状況を  に評価するため、  の目標に準拠した評価の観点による学習評価を行うことが重要である。一つの授業や単元，年間を通して，児童生徒がどのように学ぶことができたのかや，成長したのかを見定めるものが学習評価である。

（中略）

なお，教科別の指導を行う場合や各教科等を合わせて指導を行う場合においても，

の目標に準拠した評価の観点による学習評価を行うことが必要である。

- (1) 空欄カに入る語句を，次の a～d の中から一つ選びなさい。

a 長期的      b 短期的      c 効率的      d 多角的

- (2) 空欄キに入る語句を，次の a～d の中から一つ選びなさい。

a 自立活動      b 6区分27項目      c 各教科      d 各段階

- 4 次の文は、「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）（平成30年3月）」の一部である。

自立活動は，特別支援学校の教育課程において特別に設けられた  である。この自立活動は，①授業時間を特設して行う自立活動の時間における指導を中心とし，各教科等の指導においても，自立活動の指導と密接な関連を図って行われなければならない。このように，自立活動は，障害のある幼児児童生徒の教育において，教育課程上重要な位置を占めていると言える。

- (1) 空欄クに入る語句を，次の a～d の中から一つ選びなさい。

a 指導形態      b 指導領域      c 教科      d 専門教科

- (2) 下線部①「授業時間」について，「特別支援学校 小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月）」では，児童又は生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等に  
応じてどのように定めるとされているか，次の a～d の中から選びなさい。

a 年間10単位時間から280単位時間までを標準とする。  
b 年間35単位時間から280単位時間までを標準とする。  
c 年間7単位を超えない範囲で定めるものとする。  
d 適切に定めるものとする。

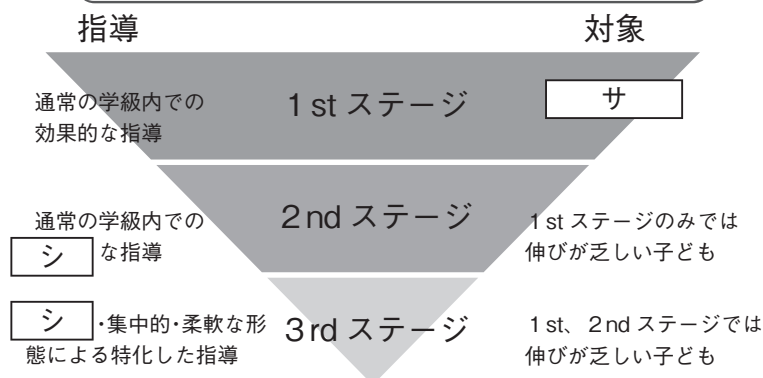
5 次の文は、高知県教育委員会で作成した『すべての子どもが「分かる」「できる」授業づくりガイドブック [改訂版]』（令和3年3月）の一部を示したものである。

文中の  ～  に当てはまる語句を、下の a ～ d の中からそれぞれ一つ選びなさい。

(2) 通常の学級における学習につまずきのある子どもへの支援の在り方

通常の学級において、学習につまずきのある子どもへの対応を考える上で、多層指導モデル（MIM）が参考になります。これは、異なる学力層の子どものニーズに対応した指導・支援を提供していこうとするモデルであり、特に子どもが学習に  に、また、つまずきが重篤化する前に指導・支援を行うことを目指すものです。MIMでは、まず1stステージでは、通常の授業の中で質の高い指導を  に実施します。2ndステージでは、1stステージのみでは伸びが十分でない子どもに対して、通常の授業に加え、その他の時間帯等も使いながら、 な指導を行っていきます。その子ども向けの教材、その子どもに向けての指示等、通常の学級内での  な指導ととらえます。3rdステージでは、1stステージ、2ndステージの指導を行ってもなお、伸びが乏しい子どもに対し、より個に特化した集中的な指導を実施します。、集中的に柔軟な形態での特化した指導を目指します。指導の場としては、通常の学級内にとどまらず、 等での指導も考えられます。

通常の学級における多層指導モデル  
(Multilayer Instruction Model:MIM)



引用文献

「通常の学級における学習につまずきのある子どもへの多層指導モデル（MIM）開発に関する研究」海津他【2008】

- |            |           |
|------------|-----------|
| a つまずいた時   | b つまずく前   |
| c 興味がもてない時 | d 集中できない時 |

- |              |                  |
|--------------|------------------|
| a 全ての子ども     | b 特異な才能のある子ども    |
| c つまずきのある子ども | d 特別な配慮を必要とする子ども |

- |       |       |       |       |
|-------|-------|-------|-------|
| a 発展的 | b 総合的 | c 横断的 | d 補足的 |
|-------|-------|-------|-------|

- |          |             |
|----------|-------------|
| a 居住地校交流 | b 通級指導教室    |
| c 適応指導教室 | d 交流および共同学習 |





